ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

第2回 ふくろう・ふれ愛まつり 1000人もの参加者で大賑わい

10月28日（日）、第2回ふくろう・ふれ愛まつりが開催されました。

前日まで雨が降り、当日の天気が心配されましたが、雲ひとつない、見事な秋晴れで、暑いくらいの陽気でした。

ふくろう職員の中にはこのような祭りの開催が初めての者もおり、地元の方々のご協力のおかげで、無事に開催することができました。

また島外からも、神戸・豊岡・尼崎・三田はもちろん、広島等県外からも参加してくださり、約1，000人もの参加者で盛大なお祭りとなりました。

午前中の式典は、志知高校の和太鼓によるオープニングで幕を開けました。来賓祝辞では、洲本市の柳市長が流暢な手話で、「地域と一体となってふくろうまつりを開催することは、すばらしいことです！」との祝辞をのべられました。

その後、来賓の皆様にふくろうのはっぴを着て、勢いの良い鏡割りをしていただきエンディングへ。

神戸聴覚特別支援学級の育友会による韓国伝統打楽器演奏があり、去年に引き続き、盲ろう者の奥井大さん（南あわじ市）等が、柳高校のボランティアの皆さんと一緒に走り、マラソンでふくろうにゴールをし、第一部式典は終了しました。

お　礼

10月28日の第2回ふくろう・ふれ愛まつりでは、たくさんの方々にご協力いただきました。おかげ様でとても楽しいおまつりになりました。

実行委員一同、深く感謝申し上げます。

第2回　ふくろう・ふれ愛まつり

「第２回ふくろうふれ愛まつり」は好天に恵まれ、大盛況のうちに終わりました。これも関係者の皆様方、また、地域の皆様のご協力があってのことだと感謝の気持ちでいっぱいです。
　ふくろうの郷に対する皆様方の強い想いを職員一同受け止め、今後も皆様方に愛される「ふくろうの郷」を入所者さん達と一緒に目指していきたいと思っております。
　本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。
（ふくろう・ふれ愛まつり実行委員会　事務局長　濱田　良介）

中川原小学校の皆さん
楽器演奏と手話歌で「涙そうそう」を披露

ボランティアグループ「ゆめの鈴」の皆さん
屏風と踊りがとても合っています

中川原保育園の園児たち
「ズッコケ男道」を力いっぱい演技！

入所者さんとは身振り手振りでコミュニケーションしました！

ひさしぶりに会えました！

▲　地域交流会のみなさん
前日の舞台・テント設営等でも大活躍。頼もしい応援団です。

▲ふくろう喫茶の３人娘

たくさんの方々に支えられて みんな楽しめました！

▲施設長と書道ボランティアの皆さん
ボランティアの皆さんのおかげで、すばらしい“ふくろう文化展”ができました。

▲模擬店（お好み焼き）
入所者の黒崎さんが一生懸命焼きました。「おいしい!」と、とても好評でした。

手話によるコミュニケーションの難しさを感じました。まだまだ勉強不足、がんばります！

初めての淡路島、ボランティア参加させていただき、本当にありがとうございました。入所者の方々からたくさんの元気をもらいました。職員になったような気分にもなり、貴重な経験となりました。
（大阪府　矢吹　香）

▲　最後はみんなでフラダンス。この日のために練習しました。

楽しかったです。ふくろうの郷が初めてのボランティアでした。

▲地元ろう協とサークルの皆さん
まつりの準備だけでなく、模擬店も出店

ふくろう文化展

奥様と支え合われて　谷　信義　さん(75)
昭和７年　11月30日

毎日来られる奥様に守られて　徳野　茂　さん(75)
昭和７年　11月27日

見事な白髪、ふくろうの仙人　芳本　茂　さん(83)
大正１３年　11月26日

礼儀正しく優しい方です　堀越　フミ子さん　さん(73)
昭和９年　11月21日

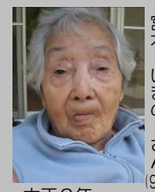
彼の笑顔で癒されます　岩瀬　幾次郎　さん(79)
昭和３年　11月21日

観音様のような笑顔　先山　君子　さん(95)
大正元年　11月19日

決めポーズはいつもこれ！　内田　朝哉　さん(76)
昭和６年　11月12日

木ユニット最年長！　坂口　きぬ糸　さん(93)
大正３年　11月9日

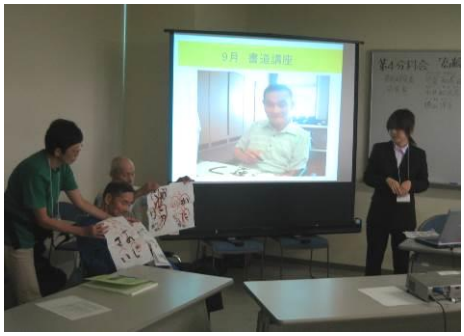
日課の散歩は欠かしません　藤本　紀代　さん(67)
昭和１５年　11月8日


子沢山の優しいママ　宮本　いまの　さん(94)
大正２年　11月3日

11月　おたん生日おめでとう

全聴福研に参加して

～ふくろうでの実践 職員・入所者が語る～



▲発表の様子。書道作品を披露。

10月27日・28日に京都で開催された「全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会」へ田村さん・黒崎さんと共に参加しました。

田村さんは平成17年に脳梗塞で倒れ、口からの食事が出来ず鼻から管を通して栄養を摂り、長い間病院で生活をしていました。

平成18年6月、ふくろうの郷へ入所するにあたり、胃ろう(胃に直接穴を開け、管を通して栄養を摂ること)の処置をされましたが、入所後もベッド上での生活がほとんどでした。

しばらくして口からの食事摂取ができることがわかり、口から食べる練習を始めましたが、長い間入院し、口から食べることから遠ざけられていたので、なかなか食事が進まず一口食べて終わりという日が続きました。しかし、周囲の仲間と手話で会話をしたり、様々な行事へ参加し、外出やリハビリを続ける中で、田村さんから積極的に「食べたい」という訴えが出てくるようになり、今では朝・昼・夕3食すべてを口から食べるようになり胃ろうもなくなりました。

黒崎さんはご飯の準備のことや、田村さんに「食べて元気にならなきゃ！」と、よく声をかけていることをお話しされました。

また、田村さんが自慢の書道作品を手に持ち披露すると、参加者の皆さんから拍手をいただきました。

これからも淡路ふくろうの郷での生活が充実したものになるように援助していきたいと思います。

（介護：園部幸江）

▲黒崎さんは食事準備について発表

職員紹介（調理）

もりしんこ
森 真子さん

おのころの家に、月曜から金曜まで、交替で利用者さんの昼食作りに来ています。

気をつけているのは、おのころの家に来られる方は、すごく薄味好みということです。ご飯もやわらかめを好まれます。

みなさん、「おいしい！」「ご飯おかわり！」と好評いただいています。お年寄りの好きな、お寿司やハヤシライスなども提供できればいいなと思っています。

まだ慣れないことも多いですが、段取りなど考えながらやっています。皆さんに喜んでいただける食事を作りたいと思っています。

「淡路聴覚障害者相談支援事業所」を開設

障害者自立支援法に基づく指定相談支援事業所として、「淡路聴覚障害者相談支援事業所」が10月15日付けで指定事業者として兵庫県の指定を受けました。この相談支援事業は、障害者の日常生活の相談に加えて、サービス利用計画の作成や訪問によるモニタリングを行うものです。障害者福祉全般に通じ、加えて聴覚障害者とのコミュニケーション技術に堪能な相談支援専門員が配置されます。事業所の場所は9月にオープンした洲本市内の地域活動支援センター「おのころの家」内です。今後、島内3市からの委託を受けて、事業が始まります。

2006年度事業報告

昨年度1年間の法人経営と介護実践の報告書です。
写真もたくさんあります。
是非読んでくださいね。

頒価　1,000円